




第28回原子力安全文化有識者会議での ご意見・ご提言への対応状況

2023年2月16日
中国電力株式会社

■ 前回の有識者会議でいただいた意見・提言については、以下のとおり対応している。

【安全文化醸成活動に関するもの】

意見・提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 失敗事例を反省するだけでなく成功事例の共有も行った方が、安全意識や仕事を円滑に進めるコツ等の蓄積につながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成功事例の共有のための工夫等について、本社だけでなく現場レベルでも検討を行っていきます。 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 原子力安全文化とは色々な考え方があるかと思うが、5年後や10年後、中国電力がどうありたいのかを考えることが重要で、そのためには、組織が点ではなく面で機能することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当社の目指す原子力安全文化のあるべき姿として「原子力安全文化醸成方針」を定め、適宜内容の見直しを図っています。 ■ この方針については、原子力部門のみならず社員一人ひとりが原子力の安全確保の一翼を担っているという自覚や誇りを持ってもらうよう、社長名で全社員に通達しています。 ■ こうした取組みを通じて、「あるべき姿」の実現に向けて組織が面で機能するよう、当社一丸となって進めていきます。

【組織のあり方に関するもの】

意見・提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織においてセクショナリズムが生じると部分最適に陥るが、事業目的の達成のためには全体最適が必要である。そのためには、社長をはじめ経営層のリーダーシップが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 過去の不適切事案の反省を踏まえ、本社と発電所間における原子力部門戦略会議等の設置、また発電所内の部制導入や部長会の定期開催により、セクショナリズムの未然防止を図っています。 ■ 上記に加え、社長をはじめとした経営層が発電所員・本社社員と顔を合わせて意見交換する場を設け、その中で自らの思いを直接伝え、事業運営に対する動機づけを行っています。

【若手社員への技能継承に関するもの】

意見・提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 若手社員に対し、作業や手順について理解させるためには、決められたものだから順守せよと説明するのではなく、その必要性を腹落ちさせるよう現場でしっかりと説明すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業や手順の目的を若手社員にしっかりと考えて理解してもらうよう、日頃から各職場で、管理職や先輩社員、あるいは当社OBがその点を念頭に置いた指導を積極的に行っています。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 現場において若手社員の技能継承に不安を感じていると思うので、今後「現場主義」、現場の声をよく聴いて対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後の教育・訓練やOJT等の具体的方策の策定にあたっては、いただいたご意見を踏まえて検討していきます。

【再稼働に向けた対応に関するもの】

意見・提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後、2号機の再稼働等に向けて繁忙感・緊張感が続くようであれば、社員のメンタル面のフォローや労務管理の配慮を十分に行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引き続き発電所の健康管理センターによる心身両面のサポートを行い、各職場の管理職と健康管理センターが連携を図りながら、メンタル面を含めた健康面でのきめ細かな配慮を行っていきます。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 電力会社の退職者が増え、原子力発電所が実際に稼働していた状態を知る人が減る状況では、社員の士気が下がってしまうのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現役社員の士気が下がらないよう、現在、発電所が稼働していた時代を知る当社OBがマンツーマンで現場指導をしており、こうした取組みを通じて、現役社員が抱える不安の解消やモチベーションの向上を図っていきます。

【その他ご意見】

意見
<p>■ 発電所へ入構する際は厳しいチェック体制が敷かれていると思うが、そのような中で、なぜ今回の不正入構事案が発生したのか疑問である。案内所というのは、「関所」でもあるので、きちんと対応してほしい。</p>
<p>■ 先般、岸田総理は原子力発電所の新增設や建替えについて、従来からの方針転換を表明したが、これに関し、「島根原子力発電所3号機は新增設に該当するのか」という点を3号機の位置づけを含めて地元の説明すべきである。</p>
<p>■ 電気がないと何もできないし、電気は究極の生活必需品であるので、中国電力は重要なインフラを担っているという誇りを持ち、胸を張って仕事をしてほしい。</p>
<p>■ 廃炉・解体というのは大変な作業であり、高レベル放射性廃棄物だけでなく大量の低レベル放射性廃棄物も発生することから、情報を適宜公開しながら作業をきちんと進めてほしい。</p>

- 前回有識者会議における有識者委員からのご意見・ご提言については、発電所内での共有（各職場での職場会議等を利用し、所属長から所属員全員に対して周知）を図るとともに、以下のように積極的に活用している。

発電所長の期待事項

原子力安全文化有識者会議 山浦委員

失敗事例だけではなく
成功事例(体験)を共有しては
(前向きな活動は元気が出る)



例えばQAかわらばん (No.15) の非常用DG
24時間運転無事完了の記事などは 成功事例
の共有になるかと

日頃のミーティングでもうまくいった事例を
共有し ほめる取り組みをお願いします

《 活用例 》

・発電所内で毎朝実施する「朝会」
(メンバーは課長以上の管理職)の
中で、山浦委員ご意見を「発電所
長の期待事項」として紹介し、各職
場で具体的な取り組みにつなげる
よう依頼した。(2022年10月実施)



(朝会の様子)